

まちぶしんぶん 6号

平成 26 年 10 月 1 日発行

発行：新潟駅周辺整備に関わる市民参加企画会議（略称：駅きかく会議）
編集協力：特定非営利活動法人まちづくり学校／新潟市都市政策部新潟駅周辺整備事務所

「普請（ふしん）」とは、「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきましょう。



時代に合わせて計画を成長させよう。



平成 26 年度・新潟駅万代広場を考える市民ワークショップの第 1 回目を開催しました。

現在進行中の新潟駅周辺整備事業は 90 年代からスタートし、30 年以上を要する都市計画プロジェクトです。これだけ長期にわたる事業となると、前提とする諸条件は社会情勢と共に変化していきます。そのため、新潟駅の駅前広場整備にあたっては、平成 14 年に計画が作られた時から「時代に合わせて計画を成長させる」というコンセプトが根底に流れています。

新潟駅万代広場の基本計画については、市民意見を伝えるため、過去数十回にわたってワークショップを開催し、平成 24 年度は、歩行者スペースの冬季対策等についての見直しを行いました。しかし、社会の変化は私たちが思っている以上に進んでおり、更なる見直しが必要になってきました。

こうしたことから、今年度、万代広場の整備計画を改めて利用者の目線で検討し、市民の声を設計者に伝える場として、ワークショップを開催しています。

平成 26 年 8 月 31 日（日）、新潟駅前の「駅まえオフィス貸会議室」において、第 1 回目のワークショップを開催しました。30 名以上の市民の方にご参加いただき、熱心な議論が行われました。本号では、このワークショップで出された情報・意見の概要をご紹介します。

設計者及び市からの説明に対する質疑応答

※全ての質疑応答は駅きかく会議のブログで公開しています。

万代広場基本計画への意見

Q 雪・除雪対策はどのように考えていますか？
A 南口広場と同じように考えています。路面には融雪装置を入れていきます（どこまでの範囲に設置するかは今後検討していきます）。また、バス待ちのスペースには屋根や風よけをつけます。除雪については、道路上に積もった雪は路側帯に置くことを想定しています。

Q 人口減少や自動車交通量の予測値の根拠は何ですか？対策を講ずることでこれらの数値が変化することはないのであるか？
A 人口に関しては、国立社会保障・人口問題研究所の予測値をもとにしています。少子化・人口減少という傾向については、対策を講じてもすぐに改善できるものではなく、一般的に 2 世代先にあたる 50 年先まで変わらないと言われています。

Q 2 階から 1 階に降りる所が 2 力所しかありません。少ないではありませんか？
A 2 年前のワークショップでも、エスカレーターの方を変えたりとか、設置箇所を増やすべきという意見を頂いていました。このあたりは、今回のワークショップで改めて検討していきたいと考えていますので、ぜひご意見を下さい。ただ、

Q 人口が減少しているのに、にぎわい空間は南口・万代口の両方に必要なのですか？
A にぎわい空間はイベント利用だけでなく、来訪者がゆったり過ごすという機能も含まれています。そのため、こうした空間は万代広場でも必要であると考えています。



実際の整備にあたっては、事業費のことも関係してきますので、整備の可否についてはワークショップ後に協議していくことになることを、ご理解ください。

質疑応答の後、短時間ではありましたが、設計者を交えた意見交換を行いました。主な意見をご紹介します。（全ての意見については、駅きかく会議のブログで公開しています。）

- 広場と駅舎は一体的に考えていくことが重要。そのためにも、駅舎等についてもっと情報提供をしてほしい。
- 万代広場と南口広場の一体感を持たせ、トータルでマネジメントしていく仕組みが必要。
- 広場周辺の街との連続性・一体感を持たせるような整備にしてほしい。
- 東西の自由連絡通路は今後も残り、西側部分で南北を行き来できる動線を確認してほしい。

第 1 回目は情報共有を中心に行いました。次回からは万代広場基本計画の内容に関する本格的な議論を行います。2 回目からの参加も大歓迎です。ぜひご参加ください。

今後のワークショップの予定

—— 第 2 回 ——
【日時】 **10/19 日**
13:00-16:00
【申込み〆切】 10/16（木）まで

—— 第 3 回 ——
【日時】 **11/23 日**
13:00-16:00
【申込み〆切】 11/20（木）まで

—— 《各回共通》 ——
【会場】 ほんぼーと 新潟市立中央図書館 3 階多目的ホール
【定員】 50 名（先着順）
住所・氏名・電話番号を添えてメール又は FAX でお申込み下さい。
【申込み先】 駅きかく会議・事務局 NPO 法人まちづくり学校
fax. 025 (201) 9321
e-mail : info@machikou.com

<時代の変化に伴う新潟駅及び周辺環境の変化>

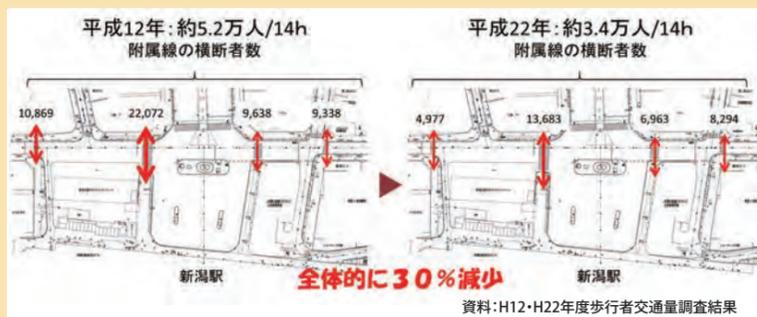
① 駅利用者数の変化 → 駅利用者数の伸び率が当初の想定よりも鈍化

駅コンペを行った当時（平成13～14年度）、将来的な駅利用者数は1日約9万人になると想定していました。しかし、現在、当時とほぼ同じ約7万4千人前後で推移しています。新潟市の人口は将来的に減少傾向であるという点も考慮すると、駅の利用者数に大きな伸びは期待できないと思われます。これに伴い、最も混雑する時間帯における駅利用者数についても、当時の想定約半分程度（約1.8万人/時間→約1万人/時間）になると考えられます。



② 駅前広場利用者数の変化 → 駅前広場の利用者数が減少傾向

平成12年と平成22年を比較すると、駅前の通りを横断する人の数は1万8千人（約35%）減少しています。また、バス・タクシー・自家用車の乗降者数は約15%減少しており、駅前広場全体の利用者数は、この10年間で約30%減少しています。



③ 自動車交通量の変化 → 駅周辺の自動車交通量が減少傾向

駅前広場前の交差点における自動車交通量は、全ての方向において減少しています（東大通では約40%減少）。将来的な交通量については、周辺道路の整備に伴い分散化され、駅前広場前の交差点交通量の総和は35%減少すると思われます。



④ 駅前の交通形態の変更 → 駅前通りの一方通行を維持/交差点のスリム化

関係機関との協議を行っていった結果、駅前の道路は現状と同じ一方通行を維持していくこととしています。（当初計画では相互通行に変更していくことを前提にしていた。）更に、交差点内の横断歩道と横断歩道の間を狭く、交差点を小さくスリムにして、歩行者・自動車共に通行しやすいように改善されました。



次に、新潟駅周辺整備事務所より、時代の変化に伴い何がどう変わってきているのかが説明されました。

新潟駅及び周辺環境の変化については、

- ① 駅利用者数の変化
- ② 駅前広場利用者数の変化
- ③ 自動車交通量の変化
- ④ 駅前の交通形態の変更

という4つがポイントになります。（左参照）

時代の変化に伴い、何がどう変化しているのか？



まずは設計チームから、駅前広場の計画コンセプト・計画概要と、駅コンペ以降に行われたワークショップによって計画内容がどう成長していったかについて、説明されました。駅コンペから12年。市民意見を取り入れながら、着実に計画内容が成長していったことを、改めて実感しました。

ワークショップでは、最初にこれまでの経緯を踏まえた駅前広場整備の計画内容(市民参加によってどう計画が成長していったか)と、社会情勢・前提となる諸条件がどのように変化しているのかを、参加者全員で共有するところからスタートしました。

まずは設計チームから、駅前広場の計画コンセプト・計画概要と、駅コンペ以降に行われたワークショップによって計画内容がどう成長していったかについて、説明されました。

まずは情報共有からスタート

施設計画の段階的な整備の方向性

- 東西ペデを除くペDESTリアンデッキを見直す。
- 地上レベルを主動線とした計画を検討する。



新潟駅及び周辺環境の変化を吟味していくと、「歩行者は交差点を安全に横断できる」ということが浮かび上がってきました。これまでの計画では、歩行者・自動車が円滑に移動できるように、2階レベルにペDESTリアンデッキを整備して歩行者の動線を確認しようとしていました。しかし、現在の状況を踏まえて改めて将来を予測していくと、「地上レベルに主動線を計画しても十分

地上レベルを主動線とした計画を検討しよう。

これまでペDESTリアンデッキが担ってきた機能を地上レベルに持つていった場合、利用者目線では何か必要か。今年度のワークショップでは、

この点について市民と設計者が対話しながら、全3回の予定で計画を練り上げていきます。

「歩行者は交差点を安全に横断できる」ということがわかりました。つまり、「ペDESTリアンデッキの整備の必要性が低下してきている」「整備は段階的に進めても良いのではないか」ということです。

こうしたことから、今年度は、ペDESTリアンデッキを整備しない段階における、地上レベルを主動線とした万代広場の計画検討を行うことになりました。

こうした変化は万代広場の計画にどんな影響があるのか？

<ペDESTリアンデッキ見直しにあたっての留意事項>

メリット

- 地上部が主動線となるため、広場を利用する方が増加し、賑わいが向上する。
- 上空にペDESTリアンデッキが無い場合、開放的な広場空間が形成される。
- 建設・維持費が圧縮される。

デメリット

- 2階レベルでの移動が出来なくなる。
- ペDESTリアンデッキが無くなることにより、地上部の冬季対策が必要になる。